

# 土岐津

- TOKITSU -

土岐津町のやきものの歴史は市内でも古く、美濃古窯跡群(645年頃)にも含まれています。

- 江戸末期 量産の磁器(白いうつわ)の製造
- 明治 輸出向けのコーヒー碗
- 昭和初期 国内向け→湯呑みや土瓶  
輸出向け→コーヒー碗やスープ皿

現在、土岐津には30軒以上の窯元があります。



今回は  
土岐津地区を  
紹介するぞ!



土岐市は  
やきもの生産  
日本一



私たちのまち・土岐市は  
やきものまちです。『みの  
やき博士』『みのやき志野  
ちゃん』と一緒にやきもの  
知識を学んでいきましょー。

美濃焼振興室  
(☎8312)



有限会社 カネマツ

山田 勝義 さん  
(左から2人目)  
従業員のみなさん

お話を  
聞かせて  
くれたのは

土岐津町土岐口 2253-3  
☎2829

土岐津の  
窯元

昔は「たちの(湯呑み、マグなど)」の生産が盛んだった土岐津  
今はどんな様子なのかな?

(有)カネマツさんに聞いてみました!



初代の山田兼松(現社長の祖父)が共同  
窯から独立したのが始まりで、昔は煎茶碗  
や湯呑みをメインに作っていました。  
それからコーヒー碗やワイングラスなど  
作るのが難しい形に挑戦したり、皿手とい  
う技法にチャレンジしてきましたが、昔か  
ら変わらずずっと磁器をベースに作り続  
けています。

Q

どんな製品を作っているの?  
カネマツさんのことを教えてください

戦時中の共同窯が影響していると思いま  
す。そこで培ったノウハウが同じなので戦  
後、独立する時にも、磁器の「たちの」を作  
る窯元が多くなったのかなあ。昭和に入っ  
てからは需要の変化もあって、土の種類や  
製品を変える窯元も多くなりました。

Q

土岐津町では、どうして湯呑みや  
マグカップをたくさん作っているの?

物作りが大好きな社長さ  
ん。今までと違う焼き  
方にも挑戦中  
なんだった!



白いマグカップやオープン食器  
(スプレ)など真っ白なものを専  
門で作る窯元が多いのお。  
あえて白いのは上絵付専用  
の生地にするためじゃ。

## 市長の部屋から

10月14日(日)

土岐津町の高山公園とその周辺で、7回目となる「土岐高山城戦国合戦まつり」が開催されました。地元高山の戦国武将隊らによる武者行列や、鉄砲隊による火縄銃の実演、子ども武将隊による模擬合戦などが行われ、訪れた観客らを楽しませました。



土岐津町高山地区は、土岐高山城や下街道高山宿にまつわる豊かな歴史と文化が色濃く残り、魅力のある地域です。

そして、この土岐高山城戦国合戦まつりは、鉄砲隊による臨場感あふれる火縄銃の実演や、回を重ねるごとに演技力が高まっている戦国武将隊の演武など、その歴史や文化を次世代へと継承する素晴らしいイベントであると思います。

今後も、このように本市を盛り上げていく取り組みが広がり、地域の賑わいにつながることを願っています。



土岐市長 加藤靖也